

**重篤化防止・救命措置・管理体制**

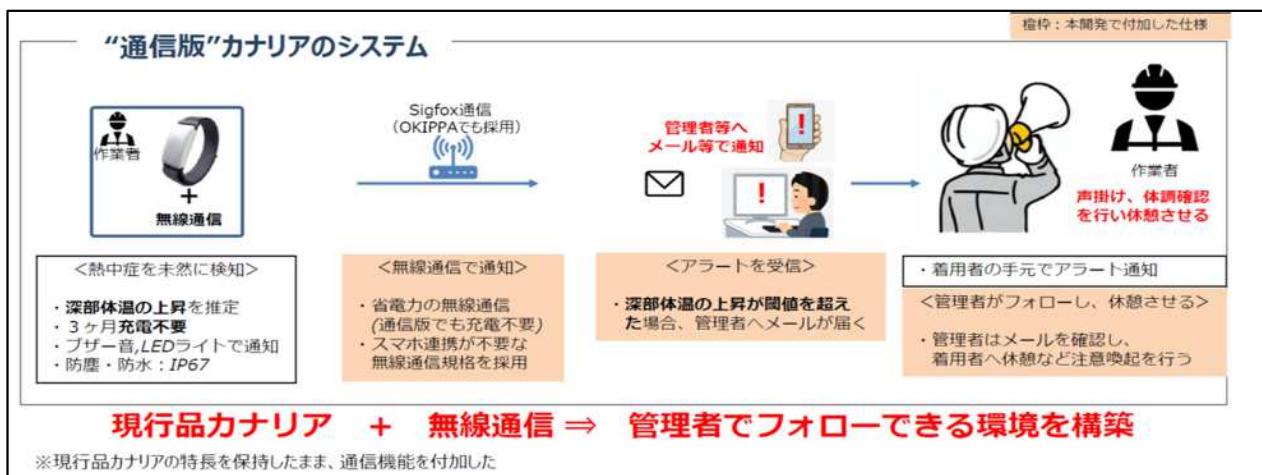
# 重篤化防止・救命措置・管理体制

当現場は市街地の開けた場所に位置しており、人通りが多くまた休憩場所からも距離があるため、現場ゲートに立っている警備員は長時間炎天下に晒されることとなる。こまめな休憩が取りにくい状況であるため、大型扇風機をゲート付近に設置し直接風を体に当てることで、少しでも涼しい状態で警備作業に従事できるよう工夫している。



# 重篤化防止・救命措置・管理体制

屋外作業に従事し過去に熱中症の発症が多かった工種（土工・鳶工・鉄筋工等）の作業員全員に通信版カナリアを配布、着用して作業を行う。着用者の深部体温が上昇するとカナリア本体のLEDライト点滅、アラーム音にて着用者に警告を発するだけでなく事前に登録した管理者（職長・元請）にメールにて通知が配信される。警告を受けた作業員は、作業から離脱、平常な状態に戻るまで休憩させる。本人に警告を発するだけでなく、管理者に通知が行くことでより一層の体調管理を行うことが可能となる。



西松建設株式会社西日本支社

# 重篤化防止・救命措置・管理体制

熱中症の重篤化防止のため、熱中症対策室を3箇所設置し、緊急資材を配備した。また、病院搬送用の緊急車両も配備した。



←熱中症対策室の設置・緊急資材の配備  
(東ゲート・中央詰所・PW西)

↓緊急車両の配備



大林組・大鉄工業・TSUCHIYA共同企業体  
2025年日本国際博覧会協会 施設整備事業 PW北東工区

# 重篤化防止・救命措置・管理体制

- ・協力会社、職員から熱中症防止責任者を任命し、ステッカーやワッペンで明示。
- ・熱中症防止責任者の職務は以下に記載のとおり。



←各協力会社、職員から  
「熱中症防止責任者」を任命し、  
ステッカーやワッペンで明示

「熱中症防止責任者」は、  
・作業中の声掛けと体調確認  
・休憩時間の管理  
・水分塩分補給の確認  
・カナリア装着の確認  
を行う

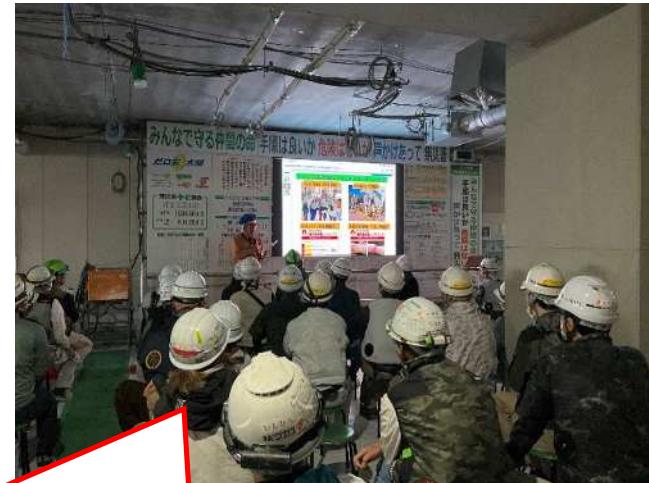
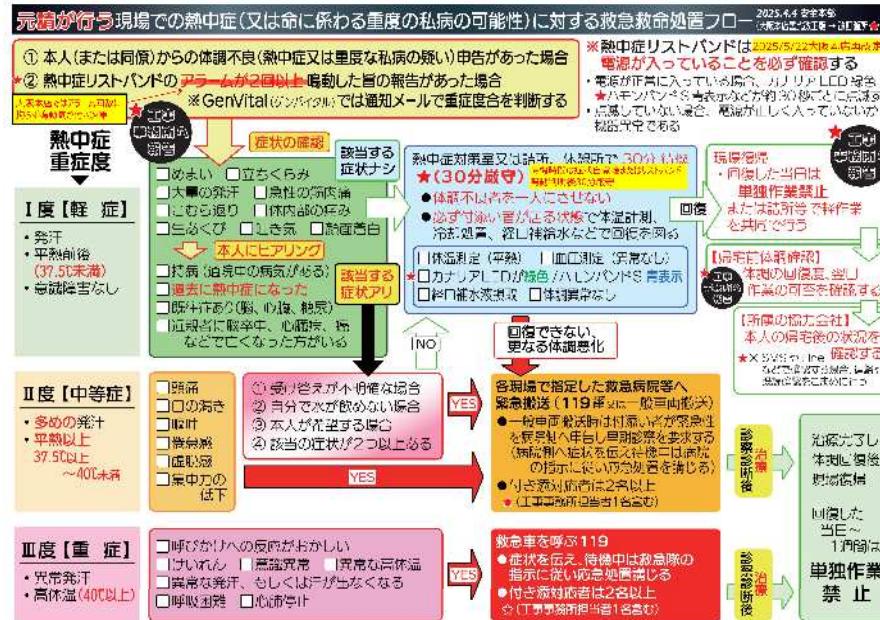
大林組・大鉄工業・TSUCHIYA共同企業体

2025年日本国際博覧会協会 施設整備事業 PW北東工区

# 重篤化防止・救命措置・管理体制

現場での救急救命処置フローを作成、掲示し、朝礼で作業員全員に熱中症対策を説明し教育を実施した。（掲示するだけではなく、朝礼、昼礼、ATKYなどでも繰り返し教育）

## 現場での救急救命処置フロー作成し掲示



朝礼で作業員全員に熱中症対策の説明

## 重篤化防止・救命措置・管理体制

安全衛生協力会主催による「作業所での救命救急講習」を開催し、緊急時に対応できる活動を実施している。



## 重篤化防止・救命措置・管理体制

5月から9月の期間、朝礼終了後に「朝のコップ一杯水分補給活動」として全作業員へ紙コップに入れたスポーツドリンクを配布し、その場で飲み干してもらう活動を実施。



# 重篤化防止・救命措置・管理体制

毎年5月～9月の5ヶ月間を、全店全社的に「熱中症防止対策推進期間」とし、熱中症予防対策【必須12項目】を、朝礼場や休憩所・会議室等の作業員の目に付く場所に掲げ、熱中症対策の実施を標準化している。

## 熱中症予防対策【必須12項目】

(別紙1)

- ① 【体調】 一人ひとりの**体調管理** (睡眠不足・過度の飲酒・朝食抜き・発熱は危険)
- ② 【体調】 全員で作業前の**体調チェック** (当社従業員、職長が中心となり実施)
- ③ 【飲む】 **作業前・作業中の水分・塩分のこまめな補給**  
(濃度0.1-0.2%の食塩水又はナトリウム40-80mg/100mlのスポーツドリンクを20～30分毎にカップ1-2杯が摂取量の目安)
- ④ 【遮る】 **熱中症予防保護具の着装** (防暑タレ・首筋冷却ベルト・冷却ベスト等)
- ⑤ **熱中症予防ポスター掲示とWBGT値(暑さ指数)の活用**
- ⑥ 【飲む】 **熱中症パトロールの実施** (体調確認・スポーツドリンク配布等)
- ⑦ 【冷やす】 **工場扇風機、ミスト扇風機、スポットクーラー等の活用**
- ⑧ 【飲む】 **塩飴類・ウォータークーラー・製氷機の配置**
- ⑨ 【飲む】 **スポーツドリンク類の自動販売機を設置**
- ⑩ 【冷やす】 **作業場所近くにクーリングダウンスペース(冷却休憩施設)を設置**
- ⑪ 【冷やす・飲む】 **事務所に緊急用冷却パック・経口補水液等を常備**
- ⑫ 【体調】 **平均台歩行による体調チェック**

竹中工務店

実施期間：5月～9月

株式会社竹中工務店大阪本店

# 重篤化防止・救命措置・管理体制

作業員が熱中症対策ウォッチを着装することで、作業中の深部体温の上昇をアラームで知らせ、熱中症の発生 及び 重症化を予防する対策をとっている。

